

# 報 廣 まつ だ い

## 松代町社会教育方針決る

昭和39年6月1日発行  
 第103号  
 東頸城郡松代町公民館  
 館長 富沢清次  
 電話 松代6番  
 印刷 松代印刷所

予ねて審議中であった松代町の三十九年度における社会教育方針が決った。これは県の社会教育方針を加味し、その中に松代町の地域要求を生かしたものである。大きな方針、目標は次の通りである

### ○松代町の社会教育方針

- 1、町民の要望を把握し、時代の進展に対応社会教育計画をたてる。
- 2、社会教育に対する世論を喚起し指導者及び、施設設備の充実をはかること。
- 3、家庭、学校および、社会教育関係団体との連絡提携を密にして町全体の健全な教育環境を育成すること。

### ○松代町の社会教育目標

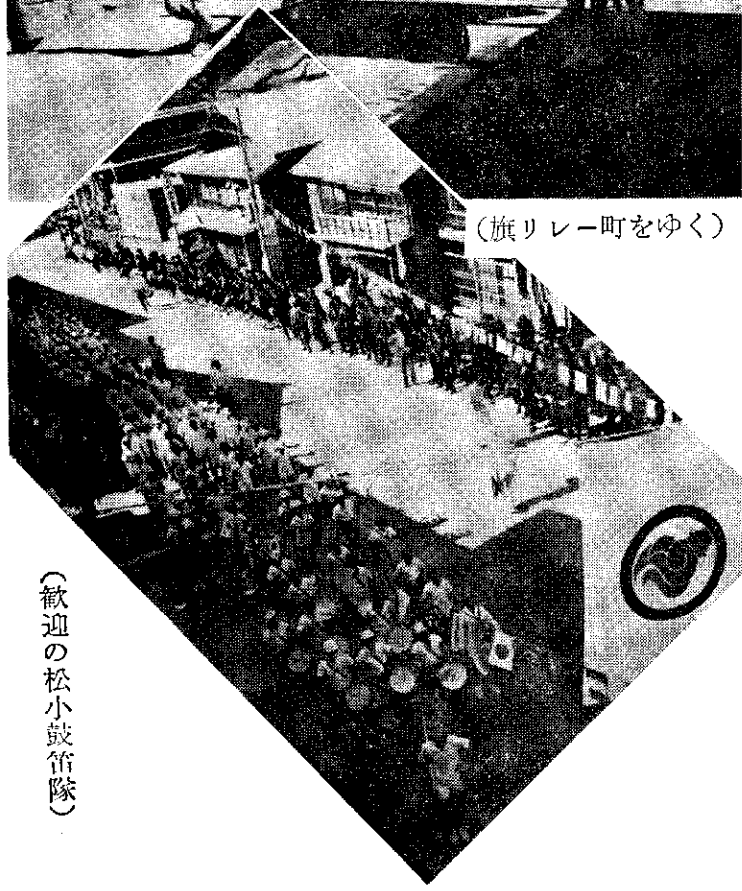
- 1、松代町の総合的建設計画に協力し、特に生産性の啓培に努める。
  - 2、誠実にして勤勉な町民性を助長すると共に、科学的合理性を強調する。
  - 3、旧来の弊風を改善し、新生活環境の醸成につとめる。
  - 4、各種文化団体および、社会教育団体の育成をはかり、その活動を推進する。
- 以上の目標に則して、実践努力事項を定めた。
- 1、社会教育行政関係  
公民館の活用と人的機能を効果的に生かし、各種団体との提携

をはかり総合的な建設計画の推進に協力する。

- 2、青少年教育  
青年学級の振興とラジオ農業学校の推進、講師団の充実、学習内容の充実をはかり、青年団・少年団活動の積極的協力を行う
- 3、成人教育  
PTA活動の充実強化と、一般者対象の講演会、研修会の機会をもつように援助をする。又新生活運動、安全運動の連絡強化をはかる。
- 4、婦人教育  
婦人会の運営強化に努め、婦人学級の学習内容をさらに高める
- 5、家庭教育  
文化振興、広報活動は更に内容を充実する様計画実践に努める



(旗りレー町をゆく)



(歓迎の松小鼓笛隊)

国体旗 町をひたはしる

# 昭和三十九年度町内教職員の異動について

四月一日付をもって例年の如く町内の先生方の移動が発表された。転出者四十四名、転入者五十三名の大きな移動であった。尚転出転入教職員は左の通りである。

## 転出の部

- 松代小学校
  - 日野勇子 西頸能生小へ
  - 東条明子 新井市新井小へ
  - 樺沢文枝 中頸中郷小へ
  - 西瀧東一 新津 結小へ
  - 高橋恒夫 南蒲中野小へ
  - 古海幸子 中魚田沢小へ
- 清水小学校
  - 村山識三 中越指導主事へ
  - 駒野郁子 三島大河津小へ
  - 田辺 豊 辞 職
- 伊沢小学校
  - 松山智幸 東頸松代小へ
  - 藤田千代子 東頸中保倉小へ
  - 松山武雄 東頸安塚中へ
  - 関谷富三 南魚神立小へ
  - 小野島光子 東頸清水中へ
- 北山小学校
  - 樋口周平 北魚藪神小へ
  - 米山定一 刈羽増田小へ
  - 井上 功 東頸浦田小へ
  - 佐藤ヨシ 辞 職
- 蒲生小学校
  - 内山彰信 塩沢商工高校へ
  - 井上 誠 退 職
- 室野小学校
  - 伊藤喜三郎 退 職
  - 西瀧哲雄 三島出雲崎小へ
  - 大貫 萌 西頸南能生小へ
- 峠小学校
  - 羽深一世 直江津上吉野小へ
  - 山崎直子 中頸菅原小へ
  - 田中弘昌 辞 職
  - 相沢太嘉治 松代中学校へ
- 松代中学校
  - 高波正二 糸魚川下早川中へ
  - 小島 混 " "
  - 小林信治 直江津中へ
  - 石田欣一 三島三島中へ
  - 宮沢正翁 南魚塩沢中へ
  - 石井文子 西蒲間瀬中へ
  - 山岸正義 辞 職
- 清水中学校
  - 小林武彦 西蒲吉田中へ
  - 神田セツ子 北蒲藤塚小へ

## 転入の部

- 山平中学校
  - 村山俊治 松之山中へ
  - 後藤昭徳 十日町高校へ
  - 村松征和 新潟大江山中へ
  - 原シズ子 南蒲大西中へ
  - 本柳貞子 松代小学校へ
- 奴奈川中学校
  - 石野一栄 直江津第二中へ
  - 安沢宏子 南魚中之島中へ
  - 高橋吉治 辞 職
- 松代小学校
  - 本柳貞子 山平中学より
  - 山本邦子 新採用
  - 松山智幸 伊沢小より
  - 内山久四郎 新採用
  - 大橋晴吉 刈羽石黒小より
  - 佐藤邦代 中魚外丸小より
  - 上野和江 新採用
- 清水小学校
  - 高橋キクエ 新採用
  - 柳 正昭 " "
- 伊沢小学校
  - 春日 求 十日町吉田小より
  - 土田栄子 新採用
  - 野本正三 松之山中より
  - 高沢 常 安塚行野小より
  - 小海早苗 名ヶ山小より
  - 宮沢ヨシ 下山分校より
- 北山小学校
  - 大滝正一 小千谷千田中より
  - 本白 満 中頸寺野小より
  - 関谷タイ 新採用
  - 藤本恒夫 新採用
- 室野小学校
  - 馬場利貞 松之山坪野小より

宮川哲夫 浦川原中保倉小より  
齊藤幸子 松之山浦田中より

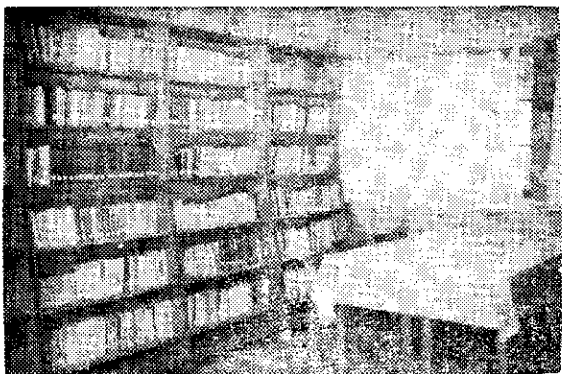
- 蒲生小学校
  - 柳 音松 新採用
  - 仲村輝夫 " "
  - 市川久良 " "
- 峠小学校
  - 金子昭治 中頸東田中小より
  - 西川敦子 新採用
  - 石口正一 " "
  - 磯部俊徳 中頸柿崎小より
- 松代中学校
  - 相沢太嘉治 峠小より
  - 福原公望 北魚川口中より
  - 白川鷹司 小千谷中より
  - 鈴木一郎 三島三島中より
  - 小林恭治 中蒲七谷中より
- 清水中学校
  - 小島善蔵 南魚六日町小より
  - 佐藤教美 新採用
  - 小野島光子 伊沢小より
- 孟地中学校
  - 清野 賢 伊沢小より
  - 若月利一 松代中より
  - 原田忠雄 " "
  - 山岸正義 " "
  - 石田 俊 中城柿崎中より
  - 石田キミ 伊沢小より
- 山平中学校
  - 村田長兵衛 栃尾中より
  - 山岸秀夫 中蒲亀田中より
  - 相沢 稔 新採用
  - 岡村百合子 北魚田麦中より
  - 小池広一 新採用
  - 本間節子 " "
- 奴奈川中学校
  - 佐藤秀夫 西頸和納中より
  - 相馬京子 新採用
  - 佐藤昌治 " "
  - 小林義之 南魚五十沢中より

## 公民館図書室貸出始まる

冬期間、各部落を巡回文庫の型で廻されていた公民館の図書は、四月末で返還されてきた。係の努力で一応の整理を完了、又新年度を迎え、大巾な増書をはかり、六月一日より貸出しを開始することになった。広く町民の皆様の利用を常にお待ちしている公民館では今年も次のように貸出日、貸出時間を定めた。

- 毎月 五日、十日、十五日、二十日、二十五日、三十日
- 時間 夜八時～九時

松代町公民館



# ハチクマ、コムクドリを確認

## △△松△△芋△△山△△の△△野△△鳥△△

### 愛鳥クラブの探鳥会

朝まだ薄暗い「もや」の中を三十名近い一行はそれぞれ探鳥武装に身をかため合宿所を出た。初夏の朝とはいはいい薄ら寒く身ぶるいする程である。先づ第一声を耳にしたのは「ホトトギス」血を吐くかの如く一きわ高く四方の山々に響き渡る。残月西に名残り惜しげにかたむく、東がしらむ頃、美声天を衝いて我がものゝように聞えて来る「キビタキ」の名調子、一行歩足を止め記録に取りかゝった、録音班もこの美声を「テープ」におさめた。夜の「とぼり」は次第にあけてゆくと共に次から次へと続いてくる野鳥の「メロデー」記録係も録音班も仲々忙しい。

実際、探鳥気分は参加した者でないとはわからないかも知れない。この自然に棲息して生命の本能を発揮し尊重する可愛い小鳥たちの群の中には生きぬくあらゆる戦い或いは争いは偉大な「力」と苦難があることと思う。皆さんに只一つお願いすることは、この小さい小鳥達を可愛いがってやって頂きたい事と、先づ第一に捕獲を禁止繁殖につとめ住みよい郷土「野鳥

の宝庫大松代町」をよりよく生かして頂きたいということだ。

探鳥のコースは、松代と菅刈と松芋山と犬伏の順となっていた。夜はすっかり明け離れた緑したたる若葉の中を野鳥と共に木の間に縫うように足の歩を進めている。山平中学校の生徒諸君は、思いの外静かな行動と熱心な方には驚く程であった。講師松井先生の説明はその都度その度び毎に詳細にわたり話をつけ加える。足も自づとかるく進みやがて郷土の霊峰松芋山の麓までの一歩手前にたどり着いた。とたん「タカ」の一種「ハチクマ」があらわれ雄々と霊谷の谷間から山頂へと飛び去って行くこれは一大収穫であった。探鳥会を始め以来五周年を迎えたが、我々主催者(愛鳥クラブ)にとっては年と共に新たな記録が生れるのが頼母しく嬉しいのである。愈々登山だ。然し険しい悪路細道を長蛇を思わせるかの如くよじ登って来るのがすぐ目の下に続いて見える。女の人も数人加わってあるので全く青息吐息の音が地の底から聞えてくるような気がする。

そろ／＼少年組の中には空腹を訴える者が始まったが頂上まではと誰かが言う。途中先づ一服という所で少年組は「フクロ」の幼鳥を見つけた。一行は寄ってたかっその幼鳥のすぐそばまで確認を求めに集る。写真班はすぐそばまで行きこれをキャッチした。親鳥もすぐ下にいた。それを見送りながら再び登り始め、目的地松芋神社にたどりついた。そこで朝飯を取った。弁当はそれ／＼異っているのがおかしく思われる。「オイル」の音がすぐ目の下にさえずっている。時計は午前八時を廻っていた。一同参拝の後下山した。下山の途中また珍鳥を確認した。それは「コムクドリ」であった。弘川で顔を洗ってほこりと汗を去り犬伏直前の足を進めた。ブナ林のこんだ中から野鳥の交響楽が聞えてくる。天気晴朗にして若葉薫る初夏の探鳥会は終りを告げたのである。野鳥の確認のことは別記のとおりであります。確認の時刻と小鳥の種類を掲げておいた。

(関谷虎三郎)

探鳥記録表 昭39.5.31

時刻	鳥名	時刻	鳥名
3.40	ホトトギス	6.19	カケス
4.6	キビタキ	5.56	チゴモス
4.7	キヤキレイ	5.8	アオゲラン
4.6	シジュウカラ	5.20	アカシヨウビン
4.10	センダイムシクイ	5.30	ヤブサメ
4.10	ツバメ	5.51	ヤマドリ
4.11	メジロ	6.30	フクロウ
4.12	ハシボソカラス	7.55	エナガラ
4.13	オオルリ	8.57	エナガラ
4.14	コサメビタキ	8.57	三光鳥
4.15	ノジコ	8.58	ブツボウソウ
4.15	コカワラヒワ	8.40	ヤマガラ
4.15	スズメ	6.40	コムクドリ
4.15	ヒヨドリ	5.30	メボソ
4.19	ウグイス	6.00	ハチクマ
4.35	ニュウナイスズメ	4.30	サンショウクイ
4.37	ホオジロ		
5.37	キジバト		
4.37	ムクドリ		
4.45	クロツグミ		
4.46	サシバ		
		合計	37種類

探鳥コース 松代～菅刈～松芋山～犬伏  
 講師 新潟県野鳥保護会幹事 松井省鷹  
 参加人員 27名

# 新潟国体迫る

## 国体旗リレー 松代町を通過

第十九回国体を目前にむかえた新潟県は、全県運動として国体を中心に健民運動を展開、迫りくる時期にむかってその意気は大いに盛上りつゝある。その時、先い前年度開催地山口市を出発した大会旗は、リレーによって五月十四日県境により、本年開催地である本県に引き渡された。大会期は更に全県各市町村を通過、佐渡にわた

って六月六日、大会々場の県営グラウンドに到着、開会式典の空高くひるがえることになった。その大会旗は、当町を通過したのが五月十六日、午後五時峠小学校下で大島村より引継ぎ、五時五十分松之山町に引き渡した。又翌十七日には町役場前にて沿道をうめつくした歓送団に送られて松之山に引継ぎ、町長を隊長に午前八時五十分鼓笛隊吹奏の中に出発、町境峠部落にて、大島村に引き渡した。この日は天候快晴にて沿道には各小中学校生は国体小旗を打ち振り国体歌を合唱、各戸は国旗を掲揚、中継点では各婦人会の接待など積極的の協力、意義あるこの日をおくった。

# 腕相撲大会

## 関ノ市に綱横初代

雪の里に春の訪れを告げる、去る四月三日、松代町では始めての腕相撲大会が公民館で開催された。七十才を越えた老人が、今時の若い者になど……と意気盛んなところを見せるなど、小学生、中学生、一般あわせて約六十人の力士が参加して技自慢、力自慢を競った。

正面舞台の土俵には畳六枚が敷かれ、その中央に机を置き、四方に赤青白紫の房が垂れ、四隅に勝負検査役が絞付、羽織、袴に威儀を正し行司は上下に正装して軍配を持ち余興とは言え厳肅の中に試合が進められた。

優勝した市ノ川関には、松代町腕相撲協会より優勝旗、八幡べい副賞、賞状、賞品が贈られ、この他大関、関脇、小結等役力士全員に新潟日報社、読売新聞社、春祭実行委員会等から賞品が贈られた。当日の成績は次の通りである。

### ◎小学生の部

- 一位 関谷敏雄(松代)
  - 二位 関谷喜久男(松代)
  - 三位 相沢幸一(太平)
- 〃 中村健二(松代)

### ◎中学生の部

- 一位 柳 孝一(松代)
  - 二位 市川賢一(田沢)
  - 三位 五十嵐利一(松代)
- 〃 柳 成一(松代)

### ◎一般の部

- 優勝 関ノ市ノ川璋次(松代荒川や)
- 大関 原錦文雄(松代原田や)
- 東関脇 男松益蔵(松代相沢組)
- 西関脇 八幡川利雄(松代利野や)
- 東小結 俵山三郎(菅刈山田や)
- 西小結 輝の海(峠 干場)

腕相撲大会は今後も毎年四月三日に行う予定ですから、来年も尚一層御協力と御参加を今からお願ひ致しておきます。



## 今年も元気一ばい

### 町婦人学級学習を開始

早目に迎えた今年の春は、好天とあいまって順調にすべり出し、農作業は一日一日を追われる様な毎日が続く。早くもあちこちに田植えの歌も聞かれようという今日此頃である。こんな時、数年来目覚ましい程の学習を続けて来た町



内各婦人学級が、今年も又その第一歩をふみ出した。自分自身の進歩、家族生活の向上、自分を取りまく社会作りと、年間の計画は意欲的なものである。疲れきった体を、それでも学習の場にむけようとすお母さん方に対して限りない敬意を表する。昨年度は当町内各部落中、二、三のものが婦人学級をもたなかった。でも今年は今部落約五十の学級が、子どもの問題技術の問題、人間関係の問題、社会的な問題と、その求めるところはいろいろの型でも、自分自身が今より一歩前進し、今よりも家庭の問題が良くなる様にと願いつつ学級活動を開始した。この学習が必ず実を結ぶことを信じつゝ、又そのことが結論を出さないとしてもそれなりの意義のある事であることを信じつゝ、よりよい学習活動を期待して止まない。そしてそれが町作りの大切な活動の一貫であることを学級生の皆様と共に自確し、周囲の人々の温い協力と指導に感謝しつゝ、自ら定めた学習方法で、自分自分の本当の意味の求めるものを学んでいきたい。